

第2回第2次長久手市地域福祉計画・地域福祉活動計画 策定委員会議事録

日時：平成30年2月5日(月) 13:30～15:30

場所：長久手市保健センター 3階 会議室

【出席委員】(50音順・敬称略) ◎委員長 ○副委員長

川本さだ子 (ながくてすこやかメイト)

川本 達也 (子ども会連絡協議会)

喜多 一憲 (長久手市社会福祉協議会)

◎佐野 治 (静岡英和学院大学)

住田 敦子 (尾張東部成年後見センター)

○竹田 晴幸 (百千鳥)

寺西 弘治 (公募市民)

服部 努 (東名古屋長久手市医師会)

細川 修 (長久手市教育委員会)

松宮 朝 (愛知県立大学)

三浦 肇 (長久手市商工会)

水野 正人 (あいち尾東農業協同組合)

水野美々子 (ボランティアセンター運営委員会)

吉村 尚子 (瀬戸旭長久手薬剤師会)

【欠席委員】(50音順・敬称略)

浅井 成美 (まちづくり協議会長・自治会連合会長・区長会)

大野香代子 (瀬戸保健所)

鈴木 大地 (愛知たいようの杜)

西山 孝樹 (瀬戸歯科医師会長久手歯科医会)

山口 節子 (民生委員・児童委員協議会)

【傍聴者】

2人

1 あいさつ (佐野委員長)

厚生労働省から地域福祉計画に関する通知が出され、盛り込む内容についても触れられた。その中でも「地域共生社会」がキーワードとなっている。障がいの「社会モデル」という考え方があり、これは障がいの原因や責任を他人や家族に求めるのではなく、社会にあると捉えていくもの。地域福祉計画にある地域共生社会の考え方も社会モデルを取り入れていかなければならない。

本委員会は、今後の長久手の地域福祉の在り方を決める重要な会議である。実りのある意見や今後の展望を睨んだ活発な意見を頂戴したい。

2 議題

(1) 第1次地域福祉計画 事業評価・検証について

資料1、資料2-1、資料2-2により事務局から説明

基本目標1から5までの地域福祉計画の各事業について全体の評価及び各事業の評価詳細について説明。

(2) 第1次地域福祉活動計画 事業評価・検証について

資料3、資料4-1、資料4-2により事務局から説明

基本目標1から5までの地域福祉活動計画の各事業について全体の評価及び各事業の評価詳細について説明。

(委員)

評価の標記について、「◎（計画どおり実施されている）」以外であっても「継続（現行どおり、事業を継続する）」となっているが、不十分な箇所もあるのに継続でよいのか。

また、社協の事業番号1「ホームページの効果的運用」について、視覚障がい者のための読み上げ機能については、改善の余地はいかがか。

(事務局)

評価の標記については、ご指摘いただいたとおり、「◎（計画どおり実施されている）」以外については、今後の事業方針に改善の余地があると思われるため、「改善」としていきたい。

ホームページについては、近隣の状況を把握し、前向きに検討していきたい。

(委員)

市の事業番号7「野菜配布事業」について、廃止とあるが、子ども食堂などに活用することは可能なのか。また、事業目的が野菜を通じた見守りが主軸のため、実施が困難ならば実現出来る方法を考えなければならない。連携が必要なものであれば、具体的にどのように連携するのかまで記載があると、より具体的な話が出来ると思われる。

(事務局)

当該事業は、子ども食堂なども配布先の1つとして検討していくことは可能である。

また、個別の家庭状況まで把握が出来なかったため実施が困難となったという背景がある。高齢者宅への訪問は、民生委員・児童委員や地域包括支援センターをはじめ様々な関係者が実施しているため、情報をどこまで共有できるのかを含め、次期計画にて連携できる事業を考えていきたい。

(委員)

市の事業番号18「集会所などの既存施設を拠点とした孤立死防止対策事業」について、高齢者など足が不自由な方には遠くて利用できない方もいる。集会場についてもうまく活用できる方向にすることは可能なのか。

(事務局)

当該事業は、まずは共生ステーションの整備からを目下の目標に掲げている。ただし、集会所については着手しないというわけではなく、段階的に進めていくものと認識している。

(委員)

市の事業番号2「緊急通報システム事業」の協力員について、民生委員・児童委員にどこまで求めているのか。

(事務局)

緊急通報システムの対応については、長年の課題となっている。連絡の手順はマニュアルに沿って行われるが、不足している部分などあれば議論していきたい。

(委員)

社協の事業番号5「地域交流のつどい・サロン活動の支援」について、サロンの活動は高齢者が多く、子どもや障がいに関するものが少ないことが課題とあったが、立ち上げていく働きかけなどはいかがか。

(事務局)

市内に子育てサロンは2か所、障がいのサロンは1か所ある。今後も立ち上げ支援を行いつつ、サロン交流会や市民との連携を行い、サロンの周知活動を行っていきたい。

(委員)

市の事業番号8「行方不明者高齢者保護ネットワーク」について、見守りのネットワークの有効度、発見された割合はいかがか。

(事務局)

現在、約7,500人が登録しており、行方不明になった高齢者も多少の時差があるが全員無事保護されている。また、この事業は本市のみならず近隣市とも連携しており、本市行方不明者の捜索のための情報を他市のネットワークに依頼する事や他市からの行方不明者の情報を受けることも可能である。

(委員)

市の事業評価について、全庁的に横断的な評価が出来ているのか、また評価の整合性は取れているのか。目標の数値化については、今後どのように検討されていくのか。

(事務局)

評価は、担当課の自己評価で行っている。数値目標は難しいところであるが、第2次計画では検討していきたい。

(委員)

市の事業番号43「高齢者日常生活用具給付金」について、件数が0件とあるが、その原因は何か分析し、検討項目に挙げてほしかった。

(事務局)

事業に対する詳細な分析まではできていなかった。別の機会があれば報告していきたい。

(委員)

市の事業番号 21「在宅医療福祉連携事業」について、電子連絡帳を活用し、医療に繋がっていない人へのアプローチが出来ればと思っているが、あまり普及していないように見受けられる。ケアマネージャーや民生委員・児童委員などがうまく連携できるようにしていけば推進されるのではないかと思われる。

(委員)

「地域住民」という記載をよく見るがその対象が限られていると感じている。もう少し横の繋がりをつくるためには自治会などの重要性について掘り下げていく必要がある。組長などは、実際にやってみると地域のことを知る機会となり、地域に関する意識が変わることがある。広報などで周知をしても読まれなければどうしようもない。そういったことを踏まえて、周知・啓発方法を考えてほしい。

(委員)

市の事業番号 22「徘徊高齢者捜索模擬訓練」について、プロセスの重視だけではなく、具体的な進め方についてを示してほしい。また、「徘徊」は差別的用語になっているため検討してほしい。

(事務局)

言葉の定義については、長寿課と協議していく。具体的な進め方は、市民主体により進めていきたいと考えている。まずは認知症に関する考え方や思いを伝えることから始めていきたい。

(委員)

集会所において、サロン活動を実施しているが、集会所の建物自体に不具合が起こることがある。集会所の修理・改修などを社協の事業番号 5「地域交流のつどい・サロン活動の支援」に活用できないか。

(事務局)

現在、集会所の管理は各自治会に行ってもらっているため、修理・改修などはその自治会をお願いしたい。

(委員)

市の事業番号 46「児童発達支援センター設置事業」について、市の中心となる場所で行った方が良いのではないのか。

(事務局)

基本的な考え方は基本構想でまとめている。場所は、東小校区の農村環境改善センターを検討しており、上郷保育園、上郷児童館及びすぎのこ教室の機能を併せた複合的な施設とする予定である。

(委員)

福祉サービスの事業所が訪問する際に自動車を使用することが多いが、やむを得ず路上駐車をすることがある。長久手市の多くのエリアは、愛知警察署の駐停車禁止の重点地域に指定されている。その結果、福祉サービスを提供しようにも駐停車禁止のリスクを負うことがあるため、警察と協議し、サービスが行き届くように検討してほしい。

(委員)

福祉サービスの事業所では、人材の不足が大きな問題である。この原因として、人材の募集に関する周知不足と推察しているが、事業所が単独で取り組むものではなく、市内一丸となって取り組む課題であると考えている。

(3) 長久手市地域自殺対策計画策定について

当日資料により事務局から説明

地域福祉計画と以下の事業を協働すること及び事務局に健康推進課が加わることに
ついて委員に諮り、承認を得た。

- ア 本計画を、第2次地域福祉計画内に位置づけること。
- イ 市民ワーキング等の同時実施
- ウ アンケートに自殺に関する項目を加えること
- エ 職員ワーキング等の同時実施（事業洗い出しについて等）

3 その他

事務局から連絡事項

- (1) 次回委員会は5月に予定している。
- (2) 市民を対象にしたアンケートについて、年度末までに発送する予定としているため、アンケートの項目は、素案が出来上がり次第、各委員送付し、検討していただきたい。
- (3) 地域福祉のための講演会を3月18日（日）午後から福祉の家にて開催予定。
講師は、近藤 直子氏、講演テーマは「子どもの可愛さと出会う～大人は子どもの応援団～」。
- (4) 平成30年10月18日（木）19日（金）に地域共生社会推進全国サミットを開催予定。
平成29年度まで「介護保険推進全国サミット」として、毎年、全国の自治体が持ち回りで実施していたが、平成30年度からは「地域共生社会推進全国サミット」に移行して実施する。

(以上)